

童

2022年11月30日

11月。1年中で一番美しくもあり、季節の動きが一番速い季節でもあります。栄華と衰退という状況でしょうか。今年はとにかく紅葉が美しかったように思えます。子ども祭に代表されるように、じっくりと大地の紅葉を楽しむことが多かった。コロナで、出かけることも少なく、ゆっくりと落ち着いて里山の光景を楽しむ事が多かった。地に足をつけて、大地で過ごすことが多かったからでしょうか。

子ども達も、日々歩くことが中心で、大地の周囲を繰り返しじっくり楽しむ。長距離散歩と称し、大地周辺の里山を、何度も同じ方面へ出かけ、季節の移ろいを感じながら過ごした。

そんな集大成が、子ども祭の好天と成功が、ご褒美としてもたらされたのではないのでしょうか。

今は落ち葉いっぱい大地。先日まで黄金色の大地だったのに、今は葉が落ち、枯れ枝のように樹木がたたずんで、水墨画のような世界になってきています。これほど、環境が目まぐるしく変化するのは、11月ならはです。それでも、今月は温かい日が続いた11月でした。以前ならば、林檎の収穫は11月初旬(サンふじですが)11月下旬には果樹園から林檎は全てなくなっていました。今では、12月になっても林檎が実っています。考えられない状況です。林檎と言う風物詩は、秋ではなく、初冬になりそうな世の中です。



そんな気候の変化には関係なく、子ども達の歓声と笑顔が、大地には輝いています。天候に恵まれたお陰で、朝からの野外での活動も安定して(東屋の存在も大きい)、実りの秋を満喫し、取り入れ農作業などもたっぷり味わう事ができています。中でも、今年はキノコが当たり年でした。大地周辺に、これほどキノコがあり、子ども達とこんなに楽しめた事は、かつて無いことでした。なんとと言っても、今年が目玉になった体験でした。

今日から冬型になると言われています。さて、どんな世界が広がるか楽しみです。

【大地流 憧れと想像力】

昨日 トイレ新築工事の準備をしながら、朝からの子ども達や焼き芋の様子を楽しんで見ていました。絵本、朝の会、焼き芋の準備、火おこし、火焚き、落ち葉集めなどなど。どれもが野外で行われ、大地ならではの光景。子どもならず、大人もこの自然の中で、普段の暮らし、日常生活ではできないような体験がきっと面白いだろうと。

そんな中で、子どもの憧れ(要求)と大人の想像力のアンバランスを考える事がありました。この点を、スタッフと確認した出来事がありました。

絵本や手遊びやわらべ歌ひとつとっても、子ども達が見やすい(子ども達がしっかりと楽しく見たいという憧れ)事に配慮(想像)して、演じる(スタッフ)位置や子ども達の場所体形や絵本の方向や声や姿勢や高さを工夫配慮する事が大切だろうねと。

焼き芋の準備は、頂いた安納芋を、それぞれ新聞紙で包み、濡らしてたき火の中にくべ、その後は、数名の子どもが火の周りでうちわで扇いだり、落ち葉をくべている以外は、スタッフが2名ほどで焚き火の管理をしている光景がありました。それ以外の子ども達は、他の遊びをして、たぶん出来上がりの合図までは、我関せず状況で、スタッフがほとんど作り上げるという、よくある焼き芋大会の状況になりそうでした。

ここで憧れと想像力を働かせると? 火を焚くこと、落ち葉を集めてくべて燃やすこと、これらは泥や水遊び同様、子ども達の魅力と憧れです。スロープ一面の落ち葉を、竹箒で掃き、林檎箱に詰め、電車やトラックのように運び、石炭をくべる蒸気機関車のように焚き火に放り込み、うちわで扇いで燃やす、という一連のごっこ遊び、それで焼き芋ができあがる、というおいしい結末。こう考えると、大人は、うちわと林檎箱と竹箒を、子どもの人数分を、事前準備しておくことが、今回の大地の仕事だという事なのです。こんな子どもにとって、大地でしかできない憧れ(体験)を、大人がしてしまうことは(子どもができないと思ってしまうのか、大人がやった方がうまくいく、手っ取り早いと思うのか・・・)、子どもの夢と憧れを奪ってしまいかねないことだと。

子ども祭のルーフカフェ、屋根の雪おろし、軽トラに乗ること、大地2階への薪上げ、バックホーに乗ること、大工道具で遊ぶ事などなど、数え上げたらきりがありませんが、大人の日常の暮らしの中で、子ども達が憧れている物がめちゃくちゃあります。危ない、無理だ、できない、法律違反などと大人の尺度で簡単に切り捨てるのではなく、自分が子どもだったら、小さいときの憧れを思い出し、そして子どもの憧れや願いが満たされたときの子どもの心と笑顔を想像してみましよう。そのために、どんなことをクリアしたらいいか、どんな環境を作り、どんな品物を用意し、どんな注意を子ども達すればいいか、そうすると、何とか工夫しよう、どんな事に配慮してそして準備して、そして大人が覚悟してあげたらいいかを考えるのが、大地流想像力です。ゴールをめざし考えていくのではなく、ゴールした時をイメージし、それに必要なものを考え事前に準備していく事です。

シュタイナーセミナーの参考書 p.115 ページの文章が気に入っています。「想像力がなければ、新しい物事を始めることができない。他の人の停滞に気づけず、成長や発展もなく、同情もできない。愛も想像力なしで栄え継続する事はできない」

子ども達の憧れや要求に気づけず、大人がやってしまうことは、子どもの成長や発達や体験を阻害し、子どもの気持ちに同情できない危険性もあります。現代では、大人の都合や無責任や覚悟の欠如や自己責任の回避や逃避や従来通りがまかり通り、子ども達が大人になりたい、未来への展望が描きにくい世の中になっているような気がします。

恋人同士、パートナー、夫婦もしかりです。相手の考えていること、目指す事、立ち位置などなど、お互いに将来を想像しながら愛し続ける、それが、更なる想像力を高め、人生が日ごとに豊かになっていくのではないのでしょうか。

以前の童にも書きました。オリンピック選手など超一流アスリートは、優勝を目指して日々練習するにみならず、「表彰台の一番でっぴんでガッツポーズや満面の笑みでメダルを受け取ってパフォーマンスしている自分」をイメージ想像(ナルシスト)している、と聞いたことがあります。なりたい自分、10年後の自分の位置などを想像しているわけですね。仕事も同じです。ゴールした

重ね煮発祥の岡山のわらの家(日本最高の民宿と聞いたことがあります)。岡山のへんびな山奥で、こんな場所にオープンしても誰も来ないよ、と揶揄されても、スリッパを30足か50足(忘れましたが)準備して、その位、繁盛するイメージ(想像)で準備したと言われています。

35年前、大地も、何もなかった現在の場所で、2人で、この場所が良いね、想像していました。